

十勝岳

1 概況

19 日と 24 日に規模の小さな火山性微動が観測されました。62-2 火口では活発な噴煙活動が続いていますが、これらの微動の前後で特に変化はありませんでした。

2 地震活動の状況

19 日 02 時 21 分頃から継続時間約 10 分間（最大振幅は H 点で $0.15 \mu m$ ）また、24 日 13 時 57 分から継続時間約 4 分間（最大振幅は H 点で $0.09 \mu m$ ）の微動が観測されました。微動の観測は 4 月 27 日以来です。5 月に観測された 2 回の微動は、振幅が 4 月 27 日とほぼ同程度で、継続時間は $1/2$ から $1/5$ の規模でした。

地震は 1 日に 22 回とやや増加しましたが、それ以外は 1 日あたり 0～7 回で推移しました。

月別地震・微動回数

2002～2003 年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
地震回数 H 点	14	28	28	113	96	47	54	93	58	39	44	60
地震回数 A 点	4	5	11	21	13	15	11	15	16	9	18	14
微動回数 H 点	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	2

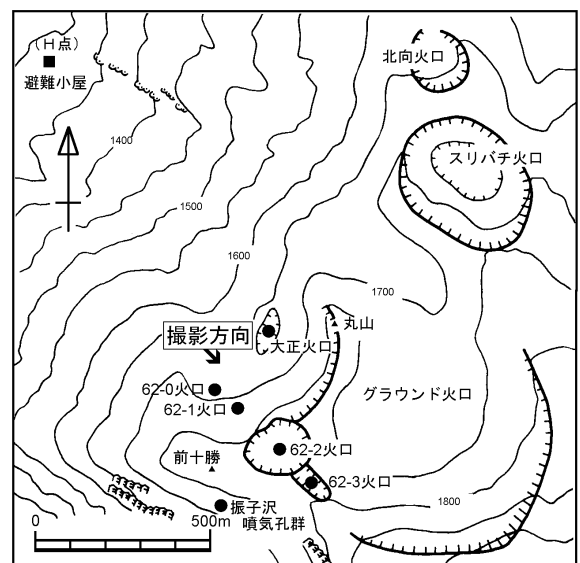
3 噴煙活動の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いており、噴煙高度は概ね火口上 200m 前後で推移しました。下旬には時々噴煙量が少なくなることがありました。

4 上空からの観測結果

5 月 20 日に北海道の協力により実施した上空からの観測では、62-2 火口は依然活発な噴煙活動が継続していたほか、大正火口壁の数か所で噴気が確認できました。また、旧噴火口では所々で弱い噴気が認められました。赤外熱映像観測では 62-0、62-1 火口などの地熱分布に変化は認められませんでした。

なお、28 日に道立地質研究所が火口縁から測定した 62-2 火口の最高温度は、333（赤外放射温度計：放射率 1.0^* ）と高温を維持していました。



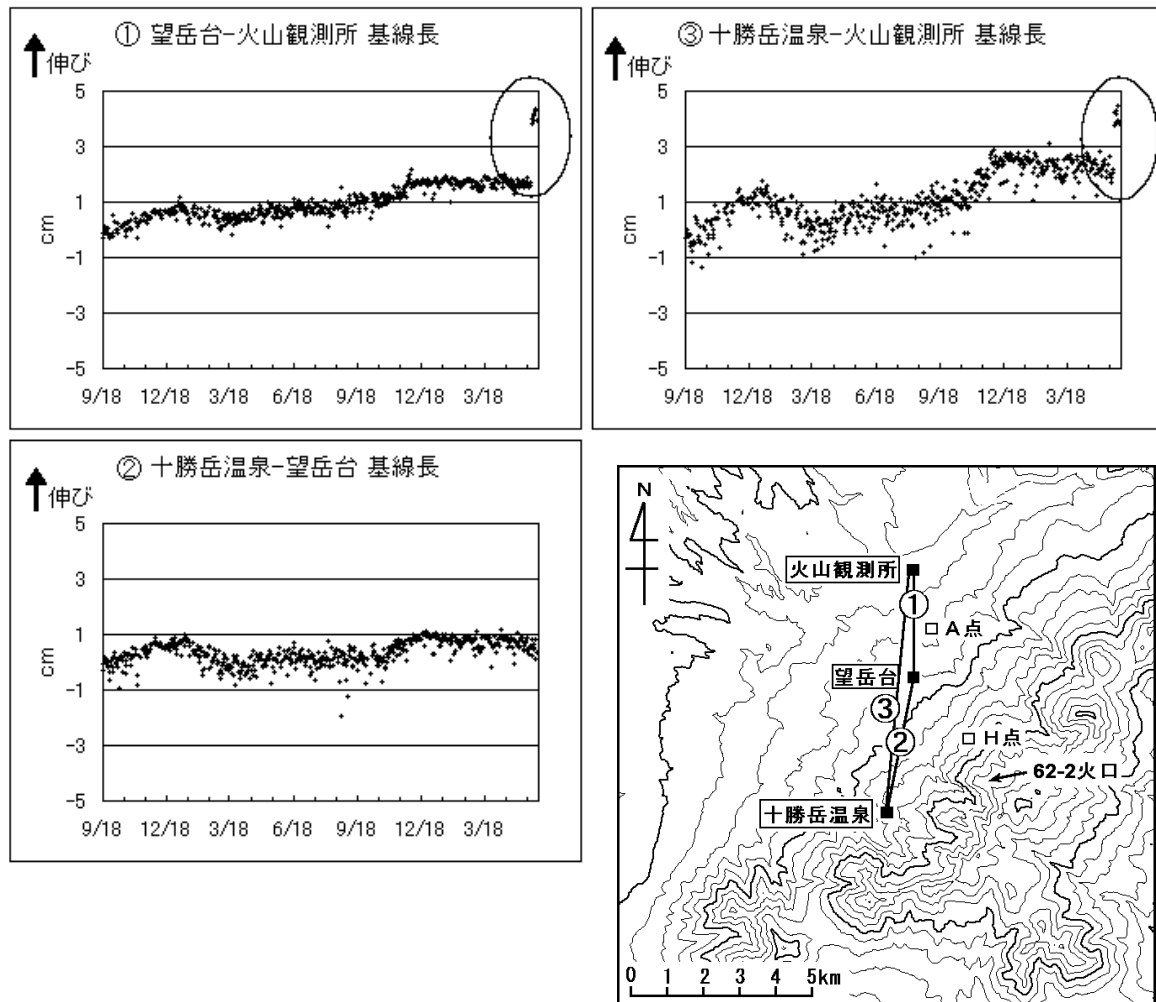
十勝岳火口周辺図

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器。熱源から離れた場所から温度を測定できるが、はっきり対象が見えない場合や、熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。

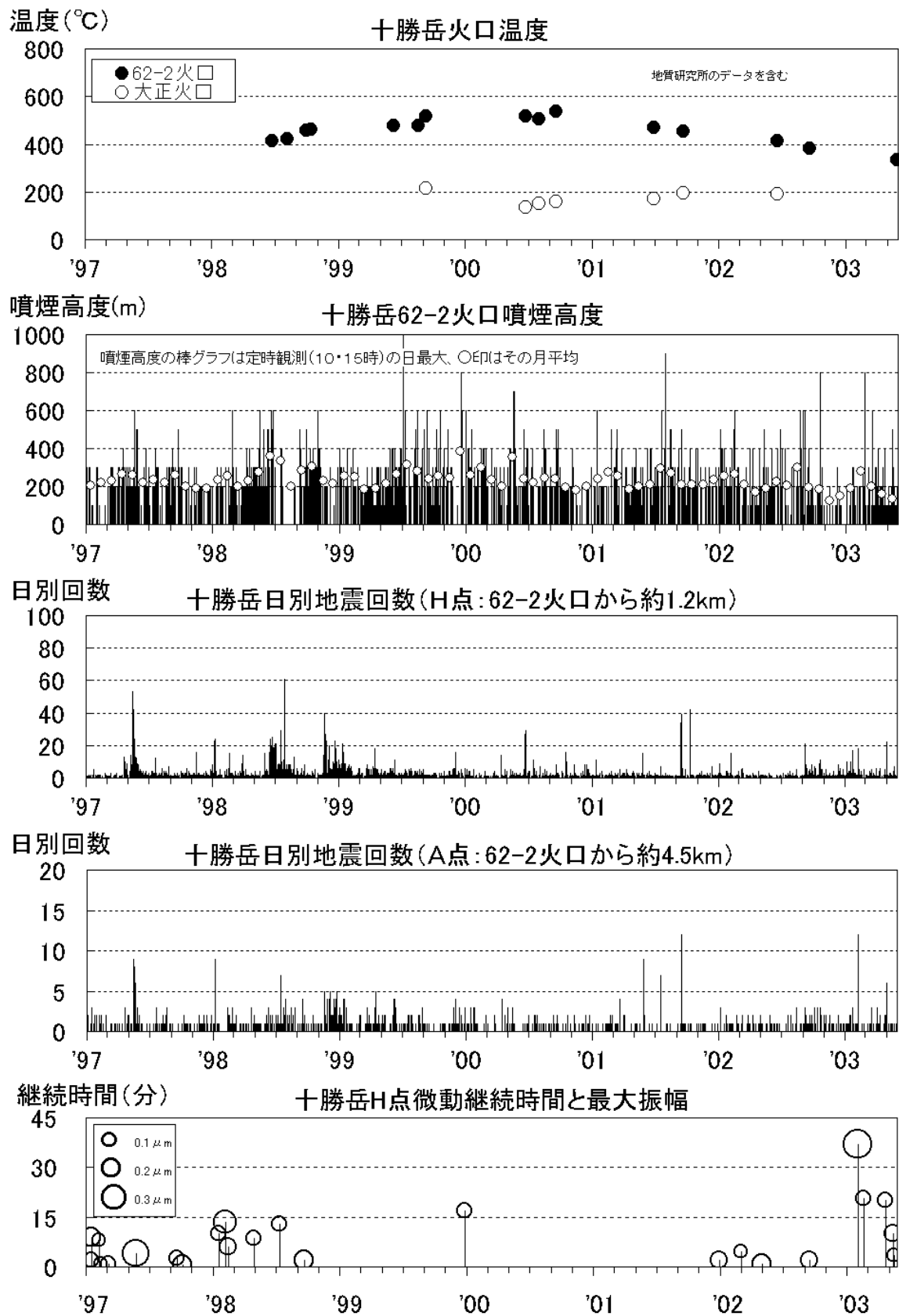
また、同じ温度でも物体により放射の程度（放射率）が異なるため、その設定により温度が変わってくる。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9～1.0 に設定して測定している。

5 地殻変動の状況

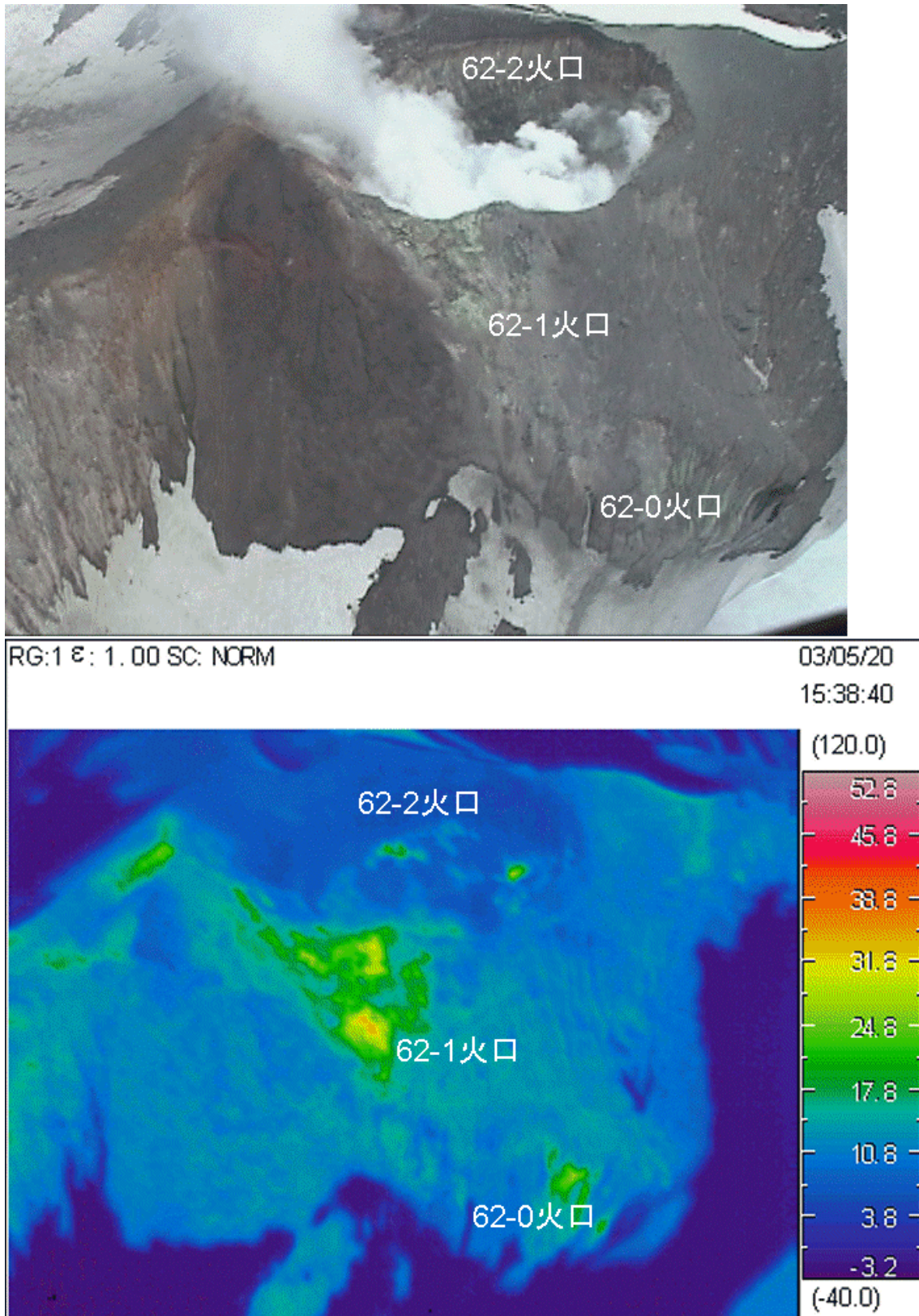
G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。 と の基線長には、5 月 24 日 12 時過ぎから不連続な変化(図中○印)が記録されています。この変化は の基線長に現れていないことから、火山観測所の局所的な変動と考えられます。



十勝岳基線長変化(2001年9月18日~2003年5月31日)



十勝岳火山活動経過図（日別、1997年1月1日～2003年5月31日）



北西側上空から見た 62 火口の赤外熱映像

(2003 年 5 月 20 日 15 時 38 分、天気曇り：北海道消防防災ヘリコプターから撮影)

62-1 火口、62-0 火口の地熱域は、緑～オレンジ色の領域として表現されている。